

オーナーblog 第13話 「21世紀は、インドの時代になるのか？」（2024.1.24.）

旅をすれば、インド人と中国人は大きく違うと感じる。インドで列車に乗っていると親戚かと思うぐらい親しく話している人たちが多く、乗車で初めての間柄である。

日本人はそのルーツより、当然中国人の思考法が理解しやすい。現在の中国政治にしても、なんとなく理解ができるのではないだろうか。一方、インド人がガンジス河で沐浴して、晴れやかな表情になるのは理解できるだろうか。糞尿や茶毘に付された灰が混じる水に、頭の先まで浸かることは、衛生面より抵抗を感じる日本人が大半ではないだろうか。

インド人と中国人の思考のパターンは、どのように違っているのだろうか。今後、世界のGDPトップに君臨するだろうと予測される国を理解することは、現在の学生には意味のあることだと考える。

インド人と仲良くするには、ヒンズー教や仏教で考えると分かりやすくなる。対象は宇宙や自然の法則である。だから、君子や年長者いう“人”ではなく、物理学や哲学というものになり、人間はその一要素でしかない。“神（宇宙）”と融合する祭りなどに何日も費やせるのは、その思想によるものではないだろうか。第二次世界大戦前までの日本で、日常的に残っていた文化もインド的なものであった。

日本人は必要とされる文明を学び、それを吸収（生きるために迎合？）してきた。敗戦後のアメリカ化は、日本風土に合わない大量消費生活も取り入れている。次の50年は、必要に迫られてインドを理解する。もっとアジア的な日本に戻ることを、期待を込めて考えたい。すでにその教科者は存在している。弘法大師空海の『密教』がある。釈迦の仏教とヒンズー教が合わさることで、国策のSDGsとも矛盾が無くなると信じる。